

10月1日から、広域バス路線の一部が変わります

広域バス路線の見直しと再編

問い合わせ先

市役所本庁舎交通対策室

TEL (0857) 20-3257

現在、鳥取県東部のバス路線は鳥取バスターミナルを中心に各方面へ運行され、日ノ丸バスと日交バスを合わせて、約1000便が運行されています。

しかし、自家用車の普及などにより、バス利用者は減少し続け、県東部地区では、この5年間で約110万人減少、平成17年度の利用者は約325万人となり、昭和42年の最盛期の1割にも満たない状況となっています。

路線の維持と補助金

多くの広域バス路線は赤字での運行となっていますが、路線バスは最も身近な公共交通手段であり、地域住民、特に高齢者などの交通弱者にとっては日常生活を送るうえで欠くことのできない交通機関です。そのため、国・県・市町村は事業者に対し補助金を交付し路線維持に努めています。本市では、平成17年度に前年に比べて約2500万円増の約1億6700万円の補助を行っています。

路線の見直し

〔経過〕本市は厳しい財政状況を踏まえ、従来から、バスをはじめとする市民の生活交通のあり方について「生活交通検討協議会」で検討を行っています。

このような中、今年2月、県から広域バス路線に係る補助金の大幅な削減案が提示されました。これは、本市のように広域合併を行った市町村にとつては大幅な削減となるものです。

これを受け本市は、県に対

して実態を踏まえ、現行制度を維持するよう要請を行い、従来から行っている実態調査や県を交えた住民説明会を実施しました。

その結果、県は経過措置として2年間継続して補助を行う予定となるとともに、本市の広域バス全38路線の見直し調査・検討もまとまりました。〔内容〕その内容は、廃止路線を4路線、経路変更や路線縮小などの再編路線を14路線、当面は現行のとおり運行する路線を20路線とし、廃止

や再編にともなう代替路線として2路線を新設するというものです(表1参照)。このバス路線の再編は、地域のみなさんの意見をもとにバス事業者と協議を行いました。具体的には、乗り継ぎによる区間短縮や新規路線の新設、時間帯による乗車傾向などを勘案した便の統廃合やダイヤ変更など、効率的で利便性を考慮したものとなっております。10月1日から実施します。

これからの取り組み

本市は、全国に先駆け平成13年から導入しているオンデマンド型バス(事前予約による運行方法)やバス代替タクシーを含め、今後も、乗継ぎ拠点の新設、利用目的にあった経路、また、地域のみなさんなどによるNPO法人への運行支援など効果的で効率的な運行方法について検討していきます。そして、地域の実情を考慮しながら、地域住民のみなさんとともに取り組みを進めて行きたいと考えています。

広域バス路線の再編(10月1日から実施) (表1)

路線	運行系統名			見直し		
	起点	経由地	終点	区分	内容	
市内岩倉	鳥取駅	直行	稲葉ヶ丘	再編	ほかの路線と重複区間のため5往復減便	
	鳥取駅	市内	稲葉ヶ丘	再編	ほかの路線と重複区間のため6往復減便	
中河原	鳥取駅	直行	栃本	再編	雨滝行きに統合	
福部	鳥取駅	砂福	丘部	岩戸海岸	廃止	無島行きで代替
散岐	鳥取駅	吉成	小倉	再編	特に利用率が低い土・日・祝日運行便を統合し一部減便	
	鳥取駅	吉成	小倉	再編		
	鳥取駅	富山立病	安院上	小倉		再編
	鳥取駅	富山立病	安院前	小倉		再編
佐治	鳥取駅	円通寺	余戸	再編	栃原、余戸行きに統合	
	用瀬		尾際	再編		
日置	鳥取駅	中央病院	口青谷	再編	浜村駅乗り継ぎにより対応	
	鳥取駅	中央病院	青谷	再編		
勝部	浜村駅	下原	新田	青谷	再編	9号経由路線に統合
智頭	鳥取駅	市内	京橋	智頭駅前	再編	4便市内回り廃止し直行便へ
橋津	西倉吉町	倉吉	吉口	青谷	廃止	長和瀬線代替
	西倉吉町	倉吉	吉温	青谷	廃止	
	石脇車庫			青谷	廃止	
勝部	浜村駅			青谷	新規	新規路線(9号経由)
長和瀬	青谷			長和瀬	新規	新規路線(橋津線代替)